

## 出資法人等評価・カルテシート（平成 30 年度分）

## 1 出資法人等の概要

団体名	社会福祉法人豊中市社会福祉協議会		
所在地	豊中市岡上の町 2-1-15	所管部局・課	健康福祉部・地域福祉課
設立年月日	昭和 58 年 12 月 21 日	代表者	会長 永井 敏輝
基本金・資本金	3,000,000 円	うち市出資額（率）	0 円（ 0%）
設立目的	豊中市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とする。		

## 2 役員・職員関係

各年 4 月 1 日現在

		H28			H29			H30		
		市派遣	市OB		市派遣	市OB		市派遣	市OB	
役員	常勤	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	非常勤	21	0	0	20	0	0	21	0	0
職員	常勤	62	0	0	59	0	0	58	0	0
	非常勤	223	0	0	207	0	0	192	0	0
役員の平均年間報酬（H29 年度、千円）※常勤のみ		-			職員の平均年間給与（H29 年度、千円）・平均年齢 ※常勤のみ			6,628 千円・44.1 歳		

## 3 財務関係

損益計算書		金額（千円）		
		H27	H28	H29
	総収入	1,268,376	1,134,859	1,121,081
	（うち市受入金）	488,580	531,417	543,451
	総費用	1,318,059	1,162,153	1,178,895
	経常損益	▲49,683	▲27,294	▲57,814
	当期損益	▲41,624	▲20,832	▲34,753

貸借対照表		金額（千円）		
		H27	H28	H29
	資産の部合計	1,102,505	1,175,456	1,109,476
	負債の部合計	388,393	482,176	450,948
	（うち有利子負債）	0	0	0
	純資産	714,112	693,280	658,528
	利益剰余金	-	-	-

4 市の財政的関与の状況

(単位：千円)

		H27	H28	H29	主な内容、算出根拠等
フロー	補助金	364,376	378,496	365,503	
	事業費	364,376	378,496	365,503	コミュニティソーシャルワーカー配置事業、敬老の集い事業等
	運営費	0	0	0	
	委託料	124,204	152,921	177,948	包括支援センター事業、ファミリーサポートセンター事業等
	指定管理委託料	0	0	0	
	その他	0	0	0	
計		488,580	531,417	543,451	
ストック	貸付金残高	0	100,000	50,000	市立老人デイ廃止に伴うサービス再編に係る貸付
	債務保証残高	-	-	-	
	損失補償残高	-	-	-	
	出資金	-	-	-	
	その他	-	-	-	
計		0	100,000	50,000	

5 経営の状況

(1) 出資法人等の主な事業

なんでも相談件数  
事業報告冊子に合わせて  
514件⇒513件に修正します。

事業名	事業内容	活動指標	H27	H28	H29
校区福祉委員会活動 推進事業	(1) 小地域福祉ネットワーク活動 ①個別援助活動 (38 校区) ②ふれあいサロン (38 校区) ③子育てサロン (38 校区) ④ミニデイサービス (5 校区) ⑤ふれあい食事サービス (37 校区) ⑥世代間交流 (38 校区) (2) 福祉なんでも相談窓口 (37 校区)	(1) ①対象世帯数 ②延べ参加者数 ③延べ参加者数 ④延べ参加者数 ⑤延べ参加者数 ⑥延べ参加者数	(1) ①11,546 ②22,478 ③16,180 ④2,297 ⑤11,629 ⑥37,845	(1) ①11,425 ②22,938 ③14,505 ④1,285 ⑤10,987 ⑥36,034	(1) ①11,074 ②22,162 ③12,145 ④1,315 ⑤11,074 ⑥30,076
コミュニティソーシャルワーカー (GSW) 配置 事業	市内 14 名配置 (生活圏域に2名ずつ) ※H28～ローラー作戦件数含む	①相談件数 ②延べ件数	1,204 4,855	1,100 7,782	1,126 6,989
ボランティアセンターの運営	①登録状況 ②派遣状況	①登録者数 ②派遣回数	430 1,541	512 1,475	565 1,545
地域福祉権利擁護センター事業	①総合相談 ②日常生活自立支援事業	①相談件数 ②契約件数	2,121 107	2,026 133	1,201 155
地域包括支援センター事業	①総合相談 ②介護予防計画作成 (包括・委託)	①相談件数 ②延べ作成件数	2,365 6,891	2,499 6,870	2,587 6,792
介護サービス事業	①老人デイサービスセンター事業 (2施設) ②居宅介護支援事業 ③訪問介護事業 ④訪問看護事業	①延べ利用者数 ②延べ利用者数 ③延べ訪問回数 ④延べ訪問回数	34,436 8,141 41,582 2,928	15,800 7,992 37,767 2,648	14,900 7,651 33,712 2,906

(2) 財務指標

指標	視点	内容	H27	H28	H29
市受入金比率 市受入金／経常収益×100	自立性	市への財政的依存度を表わします。一般的に数値が低いほど、財政的に自立性が高いといえます。	38.8	47.0	48.6
人件費比率 (%) 人件費／経常費用×100	効率性	数値が低いほど財務の弾力性が高いといえます。総支出における相談業務等のマンパワーが業務の中心となる団体については高くなる傾向にあります。	75.6	76.8	74.4
管理費比率 (%) 管理費／経常費用×100	効率性	コスト体質を表すもので、一般的に数値が低いほど効率が良いとされます。	24.4	23.2	25.6
正味財産比率 (%) 正味財産合計／(負債+正味財産合計)×100	安全性	負債及び正味財産合計に対する正味財産合計の割合。自己資本の比率が高いほど資本構成が良く、経営的安全性が高いといえます。	64.8	59.0	59.4
固定比率 (%)	安全性	正味財産合計に対する固定資産の割合。固	106.8	100.0	100.8

固定資産／正味財産合計×100		定資産を返済不要な正味財産合計でまかなわれているかを表します。100%未満であれば安全性が高いといえます。長期的な経営の安全性を示しています。			
流動比率（％） 流動資産／流動負債×100	安全性	1年以内に返済を要する負債に対する1年以内に資金化できる資産の割合。数値が高いほど支払い能力が高いといえます。100%を下回る場合は注意が必要です。	304.3	340.2	307.1

### (3) その他

#### ア 給与体系

区分	<input type="checkbox"/> 独自体系 <input checked="" type="checkbox"/> 市の体系を準用 <input type="checkbox"/> その他（ ）
見直し予定	<input checked="" type="checkbox"/> 予定あり（平成30年度予定） <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 済み（●年●月）

#### イ 情報公開

公開ツール	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ（URL： <a href="http://www.toyonaka-shakyo.or.jp">http://www.toyonaka-shakyo.or.jp</a> ） <input checked="" type="checkbox"/> 広報紙 <input checked="" type="checkbox"/> 事務所備え付け <input type="checkbox"/> その他（ ）
公開内容	<input checked="" type="checkbox"/> 定款 <input checked="" type="checkbox"/> 役員名簿 <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画 <input checked="" type="checkbox"/> 事業報告 <input checked="" type="checkbox"/> 経営計画 <input checked="" type="checkbox"/> 財務諸表

#### ウ 指定管理者の状況

施設名	指定管理期間	備考

## 6 経営上の課題

- 地域福祉活動の推進を支える組織・財政基盤の強化と介護事業のあり方を検討していく必要があります。
- 自主財源である賛助会費、共同募金配分金、寄付金収入が年々減少傾向にあるため、募集方法の見直しや、新たな取り組みについて検討する必要があります。
- 社会福祉法人制度改革で示された事業透明性の確保やガバナンスの強化、地域貢献の取り組みを率先して努めていく必要があります。

## 7 経営改革の取り組み（平成29年度）

項目	取り組み内容	今後の課題・方向性
介護保険事業安定化の取り組み	各事業とも利用者本位のサービスと効率的な運営に努めるとともに、新たに地域貢献の取り組みとして、出前講座の実施や介護相談窓口の開設等を行いました。 外部の有識者の参画を得て、「介護事業のあり方検討委員会」を立ち上げ、今後の方向性を明らかにするべく、議論を重ねてまいりました。	引き続き安定的な事業経営に努めるとともに、地域に根ざした事業所として、積極的に地域に出向き、地域貢献に資する取り組みを推進していきます。 介護事業のあり方検討委員会の報告を受け、本会における介護事業の方向性を明らかにするとともに、あわせて勤務・労働条件等の見直しにつきましても検討してまいります。
自主財源確保の取り組み	寄附者が選択しやすい、活用方途についてのテーマ型寄附の仕組みを構築したことで、前年度を大幅に上回る件数、額を戴くことができました。	ホームページ等インターネットを経由、利用した寄附の仕組みづくりについて、調査・研究してまいります。
給与・賃金体系の検討	第2期経営発展強化計画に掲げた「給与等勤務労働条件の見直し」を具体化させるため、社会保険労務士との顧問契約を行い、規則改正に向けた取り組みを行うとともに、人材育成計画を策定し、研修体系の充実等、社協職員としてのあるべき姿像を明らかにしました。	職種（資格）に応じた、給与・賃金体系の組み立てについて、昨年度は先ず非常勤職員賃金体系について見直しを行いました。また、昨年度もプラス改定となった人事院勧告に基づく給与、一時金支給率について、本会として準拠せず、引き続き独自体系の構築に向けた取り組みを行ってまいります。

8 出資法人等の自己評価

評価の視点	評価	今後の取り組み方針
<p>必要性 ・実施事業は、社会状況、環境変化や市民ニーズに適合しているか</p>	<p>平成29年度より新たに受託しました『生活支援コーディネーター業務』について、豊中市地域包括ケアシステム基本方針に基づく地域のささえあいづくりを推進するとともに、コミュニティソーシャルワーカーとの兼務により、制度の狭間の課題を解決する仕組みや、プロジェクトの立上げ、新たな担い手づくり等を実践してきました。また全国的な広がりを見せている『子ども食堂』の取り組みについては、多様な実施主体をネットワークで結ぶことで理念や課題の共有を図るとともに、担い手となるサポーターの養成やフードドライブによる食材支援の取り組みも併せて行いました。</p>	<p>生活支援コーディネーターについては、協議体の開催や高齢者の多様な社会参加の場づくり、事業所のネットワークづくり、地域福祉活動支援センターごとの取り組みを進め、地域包括ケアの実現に向けた地域づくりを推進してまいります。子どもの居場所づくり地域福祉モデル事業については、モデルの最終年度として総括するとともに、学習支援の取り組みについて、サポーターの養成や学校との連携を強化してまいります。</p>
<p>効率性 ・人的・物的な経営資源は有効に活用しているか ・組織体制、人事給与水準は適正か</p>	<p>介護事業におきましては、毎年定年退職等による人員の減少が続いており、事業規模を維持することが困難となっています。定年退職を迎えた職員について、専門性及び資格を活かした非常勤職員として雇用継続を行うことで、現在の運営体制の維持を図っています。また、デイサービスセンター事業では、人員体制の見直しや委託経費の見直しにより、経費の縮減を図りました。</p>	<p>介護事業全体では人的・物的に効率的な運用に努めたことで、昨年度も一定の収益を得ることができましたが、デイサービスセンター事業については採算が厳しい状況が続いております。介護事業のあり方検討委員会の報告を受け、今後の市社協の介護事業について、方向性を定めてまいります。</p>
<p>有効性 ・意図する成果に有効に結びついているか</p>	<p>校区福祉委員会が実施する小地域福祉ネットワーク活動の取り組みと、制度の狭間を支えるコミュニティソーシャルワーカーとの連携による課題解決の仕組みが、国が推進する地域共生社会のモデルとして評価をいただき、地方自治体や議会等から多くの視察を受けさせていただいております。特にひきこもり支援、子どもの居場所づくり、定年後の男性の社会参加の仕組みづくりについては、空き店舗や土地の有効活用等とあわせ、有効に結びつけることができました。</p>	<p>今後も、事業を展開していく上で、多様な参画の仕掛けづくりを行い、住民主体の地域福祉活動がより一層広がる様、努めてまいります。一方、事業推進にあたっては予算や活動資金の確保が必須であり、事業効果をアピールすることで引き続き行政等への働きかけを行うとともに、各種助成金や自主財源の確保に努めてまいります。</p>
<p>総合評価</p>	<p>社会福祉法人制度改革に基づく所要の改正ならびに手続きを実施するとともに、豊中市地域貢献活動推進社会福祉法人として登録いただきました。校区福祉委員会での新たな取り組みとしての住民主体ささえあい活動(通所・訪問)は、当初予定していたより多くの校区が始められ、地域課題の掘り起こしと新たな担い手の確保につながる効果を生み出しています。また昨年度は関係機関等の周年記念事業が多く開催される中、社会福祉協議会として積極的に協働し、ネットワーク構築の意義を効果的に発信することができました。</p>	<p>引き続き「我が事・丸ごと」の地域共生社会の実現のため、また「豊中市地域包括ケア推進基本方針」に沿った、多機関の協働による包括的な支援体制をより一層推進してまいります。また、平成31年(2019年)1月に開催されます第12回全国校区・小地域福祉活動サミットでは、市民、行政ならびに関係機関等と連携し、豊中モデルの発信を行ってまいります。</p>

9 市による評価

評価の視点	評価内容	課題・方向性
<p>団体の存在意義 (必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出資目的は薄れていないか</li> <li>・市の施策の方向性に適合しているか</li> </ul>	<p>社会福祉協議会は社会福祉法第109条に基づく地域福祉の推進を図ることを目的とする団体です。同法第58条第1項には、地方公共団体は、条例で定める手続に従い、補助金を支出できる規定があります。本市の地域福祉は、市が策定する「豊中市地域福祉計画」と豊中市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）が策定した「地域福祉活動計画」の緊密な連携のもと推進しています。</p>	<p>地域包括ケアシステム・豊中モデルの構築に向けて、地域全体の支援力の底上げを図るためには、市社協の役割が重要です。市社協の培ってきた経験や知識、そして地域とのつながりを活用した取り組みが期待されており、今後も連携・協働していきます。</p>
<p>団体の活動領域 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出資法人等を活用するメリットはあるか</li> <li>・出資法人等にしかできないことか</li> </ul>	<p>全小学校区で校区福祉委員会を組織し、ふれあいサロンなどの小地域福祉ネットワーク事業の実施やコミュニティソーシャルワーカーによる制度の狭間や複合的な課題への対応、福祉なんでも相談窓口のバックアップなど、ライフセーフティネットの構築に関して重要な一翼を担っています。また、成年後見制度をはじめとする権利擁護体制の構築や介護保険総合事業の住民主体サービスのコーディネートなど、積極的に地域福祉の推進に取り組んでいます。</p>	<p>福祉課題を敏感に察知し、解決に向けた様々なプロジェクトや新規事業を立ち上げて活動されています。 他の主体が実施できる事業については、介護事業を中心に積極的にスクラップを進め、市社協でしかできない全市的な仕組みづくりやコーディネート機能が、より活かされるものと考えます。</p>
<p>団体と市との関係性 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果が市の施策の推進にどれだけ貢献しているか</li> <li>・市の関与は適切か</li> </ul>	<p>地域福祉は、公的サービス（公助）だけで実現するものではありません。市民自ら生活課題を解決すること（自助）を促し、近隣住民やボランティア団体など、地域における身近な関係（互助・共助）を構築することで、複雑多様な生活課題が解決されます。社会福祉協議会は自助について啓発し、互助・共助の仕組みづくりをすることにより、地域包括ケアシステム・豊中モデルの構築に大きく貢献しています。 市としては、補助金が適正に活用されているか、事業活動面・財務面で精査しながら法人活動を支援しています。</p>	<p>市の各種施策について、市の組織を横断的に網羅する事業の実施や、市からの事業受託という形で連携されています。 市・市社協間で積極的にコミュニケーションを図り、スムーズな協働が図れるよう、努めています。</p>
<p>総合評価</p>	<p>豊中市が策定する「地域福祉計画」と、豊中市社会福祉協議会が策定し実行する「地域福祉活動計画」は車の両輪の関係にあります。平成29年度についても、豊中市社会福祉協議会は実効性・連携面等、十分な機能を果たしています。豊中市地域包括ケアシステム推進基本方針の将来像である“「誰もが住み慣れた自宅や地域で自分らしく暮らせること」を実現する。そのことで将来への安心と希望をつくり出し、私たち一人ひとり・地域・まち・社会のすべてが、明日への活力とともに未来を創造し続ける。”をめざして、引き続き協働していきたいと考えています。</p>	<p>介護事業のあり方については、ご認識いただいているとおりです。 市も市民も市社協も、従来型発想から未来志向への転換が求められています。地域包括ケアシステム・豊中モデルの構築において、引き続き重要な役割を果たしていただくことを期待しています。</p>